あすなろの20年

三重県立小児心療センターあすなろ学園20年史

三重県立小児心療センターあすなろ学園

あすなろの20年

序　開設20周年を迎えて　三重県知事　野呂昭彦

二度目の節目に　あすなろ学園長　西田寿美

第1章　始歩から、開設後の10年 …… 1

第2章　二度目の10年 …… 5

第3章　病棟機能をどのように変化させてきたか …… 11

第4章　外来機能をどのように変化させてきたか …… 24

第5章　広汎性発達障害児への発達支援 …… 31

第6章　症例を通してみた入院治療 …… 43

第7章　教育を巡って …… 50

第8章　地域連携事業の再編 …… 54

第9章　子どもの人権と危機管理 …… 66

第10章　管理部の業務 …… 75

資料編 …… 81

開設20周年を迎えて

三重県知事
野呂昭彦

小児(こども)心療センターあすなろ学園が、旧県立高茶屋病院(現こころの医療センター)から分離独立して、本年4月で、20周年を迎えました。

その間、あすなろ学園は、児童精神科医療施設として、また同時に児童福祉法に基づく第一種自閉症児施設として、精神障害、情緒障害及び発達障害などのある子どもの治療に努めてきました。

あすなろ学園のこの20年の営みは、本県のみならず、わが国の児童精神科医療の歴史であり、その歩みを記録した「あすなろの20年」を発刊することは、非常に意義深いものであると考えます。

この記念誌を通じ、これまで学園事業に携わって来られた皆様の情熱と功績を再確認し、改めて敬意を表するとともに、これからのあすなろ学園が更なる発展を遂げるよう期待するところです。

近年、自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害などの発達障害に対する社会の関心が高まってきています。また、児童虐待など子どもが被害者となる事件が激増する中、心身に大きな傷を負った子どもたちのケアなどは喫緊の課題となっています。

本県では、平成16年度にスタートさせた新しい総合計画「県民しあわせプラン」において、子どもや子育て家庭をとりまく課題の解決に向けた取り組み方向を示して具体的な事業展開を進めているところです。また、本年3月に策定した「三重県次世代育成支援行動計画」に基づく取り組みにおいても、子どもの心に関わる諸問題に関し、医療、保健、福祉、教育が連携して早期発見・早期療育を行う体制の一層の充実を提案しているところです。こうした中、あすなろ学園に期待される役割は非常に大きいものと考えています。

今後、あすなろ学園には、その使命を果たすための一層の努力を期待するとともに、開設以来、多大なご支援をいただきました関係者の方々や県民の皆様に対しまして、引き続きご理解とご協力をお願いし、挨拶といたします。

二度目の節目に

三重県立小児心療センターあすなろ学園
園長　西田　寿美

あすなろ学園で1962年に児童精神科医療を始めた十亀史郎はいち早く自閉症の治療に取り組み、自閉症の人たちが人として当り前に「生きること、愛すること、働くこと」ができるよう、隣人として支援することに力を注ぎました。

しかし、1985年4月に県立高茶屋病院から分離独立を果たしたその年の9月13日に他界、その後の混乱期を二代目園長として稲垣卓が引き受け、清水將之が三代目園長に就任してあすなろの進むべき道を職員と共に模索しました。そして、ここに20周年を迎えることになりました。

この間、三重県は大きな改革の時代を迎え、子どもを取り巻く状況は大きく変化してきました。それに素早く対応できる組織であることがこども臨床の場にも求められていると考え、あすなろ学園将来構想をまとめ、時代に即した組織改革を行ってきました。そして4年前、清水の後を私が引き継ぎました。

定年に続いて三重県特別顧問に就任した清水は、10年を区切に仕事を振り返って新たな課題に取り組むことの重要性を強調し、20年史が職員の協力で編纂されることになりました。三分の二は自分に責任がある期間だからと、全面的な編纂作業への協力を清水から得ることができました。振り返った10年の歩みから見えてきた課題に、職員一同取り組んでいく決意を固めております。

1985年7月に十亀が残した最後の文章に、チーム医療と民主的相互関係に支えられた組織的治療（administrative therapy）と家族治療（family therapy）の重要性が説かれ、相互理解（communication）、創造（creation）、貢献(contribution)の3Cを重視することが記されています。組織は共通の理念を明確に共有するとき、その力をいく倍にも発揮するものです。

職員一同力を合わせてこども臨床を発展させるため、その趣旨を4つのスローガンで表現しました。

1．子どもを中心に行動する医療
2．時代のニーズに応える専門医療
3．子どもの健康な力を育む包括医療
4．専門性を互いに学び合うチーム医療

これからの10年、新たな気持ちで子ども臨床の発展に尽くしていこうと決意しております。

皆様の暖かいご支援をよろしくお願いいたします。